令和 6 年度　母性看護学方法論 2　産褥期の異常と看護　試験問題

試験得点
30 /30

試験日：令和 6 年 10 月 17 日(木)　　担当：郡司

学籍番号：　　氏名：

問 1、以下の文において、正しい場合には○を、間違っている場合には×を回答欄に記入しなさい。
(2 点×10＝20 点)

1) 産褥熱の定義は、分娩後 24 時間以降、産褥 10 日以内に、24 時間以上にわたり、38℃以上の発熱をきたすものをいう。

2) うっ滞性乳腺炎では、授乳を禁止する。

3) 帝王切開後は、肥満の褥婦の方が、やせの褥婦よりも、深部静脈血栓症のリスクが大きい。

4) マタニティブルーズでは、直ちに精神科への紹介が必要となる。

5) 産後うつ病の日本での発症頻度は、30%である。

6) 成人 T 細胞白血病では、母乳による母子感染のリスクが高い。

7) 母体感染症により『母乳を行わない』と妊娠中に決定した場合には、分娩後に、褥婦の母乳栄養に関する意思確認は不要である。

8) 乳房緊満時には、授乳と授乳の間で、乳房の温罨法を行う。

9) 出生直後に新生児に異常が見つかった場合、褥婦にショックを与えないように、産褥 2 日目の褥婦の身体面が落ち着くまでは面会させない方が良い。

10) 帝王切開術後は、母体の安静のために、母子面会や授乳は、手術当日は行わない。

1) ×	2) ×	3) ○	4) ×	5) ×
6) ○	7) ×	8) ×	9) ×	10) ×

問 2、生後 2 か月児の母親。「ここ 1 か月、笑うことが少なくなり寝つきが悪い。自分が恵まれていないと感じ不意に泣いてしまうこともある。自分が価値のない人間であるような気がする」と訴えている。母親の状態はどれか。(2 点)

①パニック発作
②マタニティブルーズ
③燃え尽き症候群
④産後うつ状態

答え：④

問 3、妊娠 34 週で死産をした褥婦への援助で適切なのはどれか。(2 点)

①児とのお別れの機会をつくる。
②児の抱っこはしないように助言する。
③児のために準備したものを処分することを提案する。
④退院時の指導で、次の妊娠をできるだけ早く計画するように伝える。

答え：①

問 4、子宮復古不全時の、治療や看護を 3 つ挙げなさい。(2 点×3＝6 点)

・子宮底の軽いマッサージ
・子宮底の温罨法
・早期離床